

平成24年(2012年)3月20日発行



### まわりを幸せにする 技術者を目指そう



学長  
波多野 純

卒業おめでとう。  
昨年3月11日の東日本大震災とその後の原発事故により、多くの生命が失われ、いままも過酷な避難生活を強いられている方がおおいで現状を考え、「おめでとう」と言っているのか、かすいぶん迷いました。でも、敢えて「おめでとう」と言おうと、決意しました。  
それは、卒業生の中にも被災者がおられる。肉親を失った方、故郷の自宅が被災した

方、それでも卒業にこぎ着けた皆さんの労苦と努力を思う時、賞賛の言葉を惜しみません。直接の被害に遭われなくとも、この大災害を重く受け止め、ボランティア活動などに赴いた諸君もいます。留学生の多くは母国への帰国を余儀なくされましたが、大半の皆さんが数ヶ月の内に戻ってきてくれました。  
20世紀から21世紀へ。工学の世界も大きく変わってきました。20世紀の工学は、世界の

すべての人が幸せになれるよう、世界標準を目指してきました。日本はその先頭を切り、牽引してきました。ところが、世紀末から21世紀にかけて、日本の勢いに陰りが見えてきました。遅れてしまったのでしょうか。立ち直れないのでしょうか。私はまったくそのようには考えません。「先頭を切る」その発想が古くなったのです。君が先頭を切れば、君以外の人はすべて敗者です。それでは周囲を

幸福にできません。まわりの人を幸せにする工学が、今求められています。  
「工学は世界標準を目指してきた」と申し上げました。しかし、21世紀は、もう一歩前へ歩を進め、「個性のある工学」が必要となる時代と考えます。「地域の特性を重視した工学」「使う人の心身の状態に配慮した工学」緩やかな時間が流れる工学。地下資源もエネルギー源も偏在していません。人々が何を求め

るかも世界共通ではありません。目指す方も、価値の評価も、多様性を認めなければ対応できません。  
このような21世紀、君たちは本当に必要な人として活躍できると信じています。本学で受けた教育を思い起こして下さい。実験・実習・製図など体験型授業は、実にきつかったと思います。知力も体力も時間もかかったでしょう。でも、そこで培った実践力・適応力・創造力は、これからの仕事でずっと生きると思います。ここまでの成果のならば、新しいプロジェクトにチャレンジしてもらおう、新規導入した機械を試してもらおう、そんなわくわくする時間がずっと訪れます。

日本工業大学は「実工学教育」の名の下、現場のプロジェクトリイダーを育てる教育に取り組んできました。その成果は、卒業生一人ひとりの力になり、「君がいてくれてよかった」と感謝される、周囲を幸せにする技術者に育ったと確信しています。どんな困難な状況にあっても、君ならできます。自信を持って新たな一歩を踏み出して下さい。今日はその一歩を祝福する日です。

一年制大学院の神田キャンパスの春は、修了生との別れと新入生との出会いが慌ただしく交錯する。  
先日、7期生が半年間研究を積んだ特定課題研究の成果を各自発表する最終試験が行われ、会場は熱気に包まれた。  
当大学院は、中小・中堅企業向けの技術経営(MOT)教育に特化しているが、授業科目は技術価値の創造から企業価値の獲得に至るMOTのエッセンスに加え、戦略論、財務と会計人と組織マーケティング、知財など経営全体を幅広くカバーしている。さらに、プロジェクトマネジメント

自発表を行い、有用性、独創性、論理性の観点から可否が判定される。  
研究成果は、1年間の勉学の集大成となるとともに、職場に持ち帰って実践され、経営体質の向上に貢献している。  
これまでの修了生の事例では、MOTの知恵を結果として経営戦略を体系的に構築し、成長の基盤とした企業も少なくない。また、創業者を引き継ぐ二代目社長が、学んだ知識を活用して新時代に相応しい経営者像を描くことに成功した例もある。その他、財務の視点から経営手法を見直し、リーマン・ショック後の不況を脱却した例や、MOTのノウハウを自らのキャリア開発に活かした例もある。  
当大学院の特長として、修了後も修了生が継続して勉強できるようにしつづきを(副研究科長 山岡 齊)

### 広い視野で技術を切り拓く エンジニアに



理事長  
大川 陽康

この度、めでたく学位を取得された諸君に向けて、衷心よりお祝いの言葉を申し上げます。  
昨年発生しました東日本大震災および原発事故は未曾有の災禍をもたらした。復興への道は1年たった今なお途上にあります。日本全体において重大なる事件であるとは言ってもありませんが、社会に飛翔せんとする諸君においても、様々な影響をもたらした事象で

役目をあらためて見つめる姿勢が求められてきています。  
ここで諸君の本学における学びを振り返るならば、日々、実験や研究、実習などに動んだことは、一つには現場、現物、現実と向き合うなかで、課題を見出し、解決すべく試行錯誤するという学びでありました。そしてもう一つは、先人の知見の蓄積であり、人類共有の知的財産である工学理論を学んだの

して、自らの仕事の社会に於ける意味を見つけていただきたいと思います。  
職場に新人として入り、当面は仕事を覚えることに精一杯の日々が続くでしょう。その後は組織の中で責任ある立場となる。このようなビジネスの中に自分を置くだけでなく、異なる環境、異質と触れる自分を意識しておくことが、今こそ大切なのではないのでしょうか。今日のキーワードの一つは地域社会です。地域とのつながりを持つことで、新たな別の切り口から技術を見つめる目が開かれ、それによって諸君自らの幅も広がり、人間力も高められていくことを期待したいところです。

視野をグローバルに広げること今日においては必須といえます。日本の産業界はアジアをはじめとする地域での生産活動や海外のパートナーとの連携なしには、もはや考えることができない段階にあります。即ち、かねてより言われていることではありますが、ローカルとグローバルの双方からの視点で、技術を切り拓いていただく必要があります。  
今後、ますますの磨きをかけていただくことを願い、諸君のご健康と健康を祈念申し上げます。私からのお祝いと致します。

ここで諸君の想像と抽象を行き来するプロセスを通じて、諸君は実践力に富む、工学理論を現場に活かす技術力を備えたエンジニアへの基礎を築いてきたといえます。そのような学習歴を重視する伝統を培ってきたのが本学です。  
諸君は、自らの学習歴に大いなる矜持を持ち、さらなる前進を続け、技術を担うものと

本年度のカレッジマイスターとして、益々の活躍が期待される。27名が認定され、学位記授与式において学長から認定証とゴールドメダルが贈られる。カレッジマイスタープライマリーは18名が誕生し、来年度4月の各学科のオリエンテーションにおいて認定証が授与される。本学の教育の柱である、カレッジマイスターエクセレントの称号を獲得した諸君には、ものづくりに関する発想力と実現力に秀で、それぞれの職場や学業の場において、益々の精進の後、リーダーとしての活躍が期待される。カレッジマイスタープライマリーの称号を

◆型技術工房(6名) 歌川雄介、長田卓也、工藤大地、瀧川啓太、徳長和絏、宮下健史  
◆モノ創りデザイン工房(1名) 石川慶多  
◆ロボット創造工房(4名) 村山秀人、並木淳史



マイコン応用回路工房の浅井和輝君

◆福祉情報機器製作工房(2名) 大澤初美、山越美佳  
◆2x4木造建築工房(1名) 小坂清陽  
◆インテリア工房(1名) 小島将司  
◆プライマリー(4名) 鈴木秀明、中村幸稔、安達英寿、菊原敦志

◆エクセレント  
◆機械加工工房(8名) 太田光哉、富澤大地、富澤北斗、古川亮、星野杏子、宮入智裕、宮沢大輔、山崎恵  
◆マイコン応用回路工房(3名) 浅井和輝、池田齊央、中村真  
◆福祉情報機器製作工房(2名) 大澤初美、山越美佳  
◆2x4木造建築工房(1名) 小坂清陽  
◆インテリア工房(1名) 小島将司  
◆プライマリー(4名) 鈴木秀明、中村幸稔、安達英寿、菊原敦志

◆型技術工房(6名) 歌川雄介、長田卓也、工藤大地、瀧川啓太、徳長和絏、宮下健史  
◆モノ創りデザイン工房(1名) 石川慶多  
◆ロボット創造工房(4名) 村山秀人、並木淳史

## カレッジマイスター 45名誕生

カレッジマイスターエクセレント 27名  
カレッジマイスタープライマリー 18名

## 専門職大学院だより

### 7期生修了へ 特定課題研究終え



特定課題研究の発表

機械工学科

早期卒業

平成  
二十三年  
度  
**卒業生一覽**  
3月20日付  
確定者

電気電子工学科

建築学科

# 3月20日 学位記授与式に 学長賞受賞者を表彰

●平成23年度「学長賞(学部生・大学院生)」受賞者

学部	学科/専攻名	氏 名	出身校
学部	機械工学科		
	電気電子工学科		
	建築学科		
システム工学科			
情報工学科			
大学院	機械工学専攻		

先日の選考委員会を経て、平成23年度の学長賞が決定した。本賞は優秀な卒業生に対し授与されるものであり、今年度は一覧表の通り、大学院生2名、学部生15名が受賞した。

システム工学科

情報工学科

日本工業大学付属  
東京工業高等学校は、  
平成20年4月から日  
本工業大学付属駒場  
高等学校に改名して  
います。

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

●博士後期課程

◎宮代キャンパス学位記授与式  
3月20日(火)

●専門職学位課程

大学院技術経営研究科修了生  
(予定)

◎神田キャンパス学位記授与式  
3月24日(土)

### 電気加工学会全国大会賞を 2年連続、連名で受賞



学会の全国大会賞を受賞した。平成22年度の受賞題目「導電性ダイヤモンドを原料とするPDC(PCPD)の放電重合加工」に続き、平成23年度は、ウォータージェット加工による超微粒子の精密成形による連名の論文が電気加工学会の全国大会賞を受賞した。

### 歩行アシスト装置の研究で 学会の優秀発表賞を受賞



電気工学専攻博士前期課程2年で吉澤研究室所属の五十嵐大輔君が平成23年12月12日(月)第21回電気学会東京支部新潟支所の研究発表会において「優秀発表賞」を受賞した。論文題目は「歩行アシスト装置における筋電利用の基礎検討」。

この研究では、独自開発した下肢用パワーアシスト動作補助装置を用いて歩行したときに得られる力のアシスト効果を、筋電位の発生量に基づいて定量的に明らかにした。この成果によって、思いどおりに違和感無く使用できるパワーアシスト装置の実現に寄与することが期待される。受賞に際し五十嵐君は「全く思いがけない受賞に驚いている。自分の研究が評価されたことについては大変うれしく語っている。」

### 博士号取得おめでとうございます



情報工学科磯野研究室4

### 聴覚障がい学生支援団体から グッドプラクティス賞を受賞

年の神戸俊君(日本工業大学付属東京工業高等学校出身)と一階友弘君(福島県立工業高等学校出身)が平成23年11月16日(水)「PDA(NetJapan)アワード2011」の「グッドプラクティス賞」を受賞した。発表題目は「パソコンによる字幕の自動要約を利用した情報保障」。

講義などの音声をテキスト化する場合、従来の手動で入力していたため、文字量が膨大になっていた。本研究では、聴覚障がい学生の要望を取り入れ、自動要約するシステムを開発。聴覚障がい学生の情報保障のみならず、健常者にとっても論文や新聞記事の要約など幅広く有用である」と評価された。受賞に際し両君は「この受賞をきっかけとして、聴覚障がい学生に対する支援に多くの方が関心を持ってほしい」と語っている。

### 災害廃棄物処理をテーマに 環境特別講演会を開催

環境特別講演会(災害と廃棄物)火災予防対策や有効利用の可能性を1月28日(土)、本学学生会館ホールにおいて開催した。本講演会は本学の環境教育と学外への一般普及を目的として毎年開催している。今回は国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター主任研究員の遠藤和人氏を講師に迎え、学生や教職員を中心に約200名が聴講した。教務部長成田教授の挨拶、本学の環境教育の紹介に続き、講演が行われた。

遠藤氏は主に地盤工学の見地から廃棄物処理の研究に携わっており、昨年の大震災後は福島をはじめとする現場に赴いて震災廃棄物の処理に対応している。その現場からの最新知見も含め、廃棄物処理のシステムから集積残物の自然火災、放射性がれき等の重要な問題や再利用の可能性まで、高密度に解説した。臨場感のある講演に受講者も引き込まれ、会場から活発な質疑があった。



災害現場の写真について解説する遠藤氏

### 留学生別科 修了式

3月1日(木)、本学留学生別科の平成23年度春季修了式授与式が、学生会館にて催された。4人の学生が1年間(もしくは1年半)の勉学の後、晴れて修了証書を手にした。ほか、半年間の早期進学という形で別科を巣立つ学生もいた。

学長告辞で波多野学長の激励の言葉に決意を新たに修了生たちは、未来への希望を胸に学部や研究室など、それぞれの途への一歩を踏み出した。式終了後祝賀会が催され、修了生たちの門出を祝うとともに、学生や教職員同士互いに親交を深めた。



学長から修了証書を授与される修了生

### センター入試を 本学で実施

大学入試センター試験が1月14日(土)、15日(日)の2日にわたって実施され、本学は同試験の試験会場(隔年開催)となった。両日ともに定刻どおり、各教科の試験が行われた。

春のオープンキャンパス 見よう！聞こう！ 大まかには、3/25(日) 学科紹介、研究室ツアー、体験授業、個別進路相談会など

### 天満宮 例祭

平成24年の日本工業大学天満宮例祭が2月25日(土)、11時より社前において厳粛に執り行われた。当日は、田川崇敬会長をはじめ役員各位、大川理事長、波多野学長以下、各事務部長および各学科主任教授、さらには学生自治会から高山中央執行委員会委員長をはじめとする8名の学生が参列した。

当日は、冷たい雨が降るあいにくの天気であったが、早咲きの梅もほのかに香る中参列者一同が、学生諸君のより一層の学業向上と繁栄を祈念した。



玉串を奉奠する神主

### ごみの指定袋制が はじまります

今年4月から、更なるごみの減量化や収集の安全性の向上、効率化を推進するため、指定袋制が導入されます。指定袋の対象は「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」の2種類。指定袋が導入されても、分別の種類に変更はありません。この指定袋制の実施を契機として、分別状況の再確認やごみの発生量を減らす買い方や処分の方針の工夫にも取り組んでいただきますようご協力をお願いします。指定袋の価格や販売先については、久喜宮代衛生組合HPで3月1日公開しています。詳しくは久喜宮代衛生組合(電話:34・2042)にお問い合わせください。



変更はありません。この指定袋制の実施を契機として、分別状況の再確認やごみの発生量を減らす買い方や処分の方針の工夫にも取り組んでいただきますようご協力をお願いします。指定袋の価格や販売先については、久喜宮代衛生組合HPで3月1日公開しています。詳しくは久喜宮代衛生組合(電話:34・2042)にお問い合わせください。

### 人事異動

- ◆定年退職(3月31日付)
  - ◆寺尾裕教授(共通教育系)
  - ◆塚林功教授(共通教育系)
  - ◆鈴木清教授(ものづくり環境学科)
  - ◆三宅正二郎教授(創造システム工学科)
  - ◆星野坦之教授(創造システム工学科)
  - ◆谷澤茂教授(電気電子工学科)
  - ◆森田登教授(電気電子工学科)
  - ◆谷本直教授(電気電子工学科)
- ◆小林哲二教授(情報工学科)
- ◆大木幹雄教授(情報工学科)
- ◆磯野春雄教授(情報工学科)
- ◆日下部信准教授(電気電子工学科)
- ◆飯倉道雄准教授(情報工学科)
- ◆西山光昭講師(建築工学科)
- ◆佐藤勝行助手(建築工学科)
- ◆樋口昌春助手(機械工作センター)
- ◆土野一清助手(スチューデントラボ)

### 国外出張

- ◆谷本直教授(電気電子工学科) / 出張先「アメリカ(3/3~3/9)」目的「非線形回路、情報と信号処理に関する2012 RISP 国際ワークショップでの論文発表」
- ◆田中隆治准教授(英語教育センター) / 出張先「カナダ・アメリカ(2/23~3/25)」目的「海外英語セミナーの引率および現地指導ならびに英語教材研究」
- ◆神野健哉教授(電気電子工学科) / 出張先「アメリカ(3/3~3/8)」目的「野口憲治助手(建築工学科) / 出張先「中国(3/3~3/7)」目的「自由科目「建築史実習」引率」
- ◆野口憲治助手(建築工学科) / 出張先「中国(3/3~3/7)」目的「自由科目「建築史実習」引率」
- ◆武富為嗣教授(専門職大学院) / 出張先「フィリピン(3/8~3/11)」目的「AIIM提携に関する打ち合わせおよび調査」
- ◆張曉友准教授(機械工学科) / 出張先「中国(3/10~3/16)」目的「磁気浮上アクチュエータ」に関する共同研究の打ち合わせと研究成果の報告

### 編集後記

▼卒業生諸君、学位取得おめでとうございます。ご卒業にあたり、ノーマ・コナー・マレット・マレット・クアット(アメリカ)が作った詩を紹介しよう。彼女が子どもを亡くした経験から詩作の道に入った。▼アメリカ同時多発テロ事件でも、追悼番組や集会で朗読された詩の題名は「最後だ」とわかっていったら。その詩の一部を抜粋してみよう。▼わたしたちは忘れないようにしたい。若い人にも年老いた人にも明日は誰にも約束されていないのだということを(中略)明日が来るのを待っているから今日でもないはず。もし明日が来ないとしたら、あなたは今日を後悔するだろうから(後略)▼時の流れは早い。走馬灯のように流れていく一瞬でも呼ばうか。あつという間に過ぎ去っていく。だからこそ、今、生きている、まさに、その時を大切に生きようではないかと論議されているような気がする詩だ。▼卒業生諸君に伝えたいのは、時間の持つ重みだ。人生は言うまでもなく有限。だから時と共に仲良く歩んでほしいと心から願う。「信」

### 学生自治会代表と波多野学長の 第10回懇親昼食会を開催

懇親昼食会は1月24日(火)、学生自治会の各委員長8名、波多野学長、学生支援部の竹内部長と吉見課長が出席して行なわれた。



学生の自己紹介の後、学長がリーダーとは何かについて自分の体験や考え等を語った。学生から、クラブ棟の老朽化に伴いクラブ棟の新設や体育祭の平日開催の要望があり、これらについては、今後大学側で検討していく。最後に、学長から各委員長に対して、「今後も学長室に気軽に来てもらいたい」との言葉があった。

### 台湾・高苑科技大学から 学長、国際交流長一行が来学

平成23年12月13日(火)から2日間、本学との協定校であり、毎年2名の科目等履修生を受け入れている台湾の高苑科技大学から、曾燦学長、王文龍国際交流長、楊佩蓉図書館長一行が来学された。



曾学長から柳澤学長(当時)へ記念品が贈られた

はじめに柳澤学長(当時)を表敬訪問し、現在本学で学習している2名の女子学生を交えて歓談し、女子学生からは講義はわかりやすく、楽しく学習していることが報告された。

その後、機械工作センター、工業技術博物館、LCCセンター、超高電圧研究センター等の施設を予定時間を超えて、興味深く視察された。